

【国宝・重要文化財の数】

32件

かつて琉球王国という独立国家が栄え歴史的に独自の道を歩んできた沖縄地域。県内各地の博物館には多くの文化遺産などが展示され、楽しい時間を過ごすことができる。

文化庁の「国宝・重要文化財都道府県別指定件数一覧」によると2011年4月1日現在、県内にある国宝と重要文化財の合計は32件。実は、全国で2番目に少ない件数だ。

しかし、戦前に国宝認定を受けていた文化財は24件もあり、京都、奈良に次いで3番目に多かったようだ。ただ、残念なことにすべて沖縄戦で消失してしまっている。ちなみに、現在、国宝に指定されているのは琉球王国尚家関係資料だ。とはいえ、国宝や重要文化財の指定を受けていなくても、県内には歴史遺産は数多い。ゴールデンウィークは歴史遺産巡りで、あらためて沖縄の歴史や文化を感じてはいかが。

(海邦総研経営企画部／島田尚徳)

(2011年)

	都道府県	国宝	重要文化財	合計
多い県	1位 東京都	267	2,357	2,624
	2位 京都府	226	2,247	2,473
	3位 奈良県	198	1,378	1,576
	4位 滋賀県	55	807	862
少ない県	44位 秋田県	1	38	39
	45位 鹿児島県	1	34	35
	46位 沖縄県	1	31	32
	47位 宮崎県	0	16	16
	全 国	1,082	12,761	13,843

※都道府県順位には所有者不明などのものは含まれない

【一般世帯に占める共働き世帯割合】

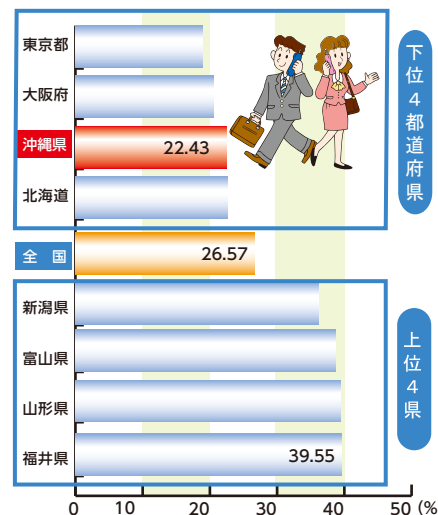
22.43%

女性が結婚相手に求める条件として、かつては「三高」。今は「低姿勢」、安定した職業の「低リスク」、束縛しない「低依存」の「三低」になっているようだ。その後、結婚すると互いに家事や育児への積極姿勢や理解・協力が求められるのでは？

総務省「2005年国勢調査」によると夫婦のいる一般世帯のうち、夫婦ともに就業している世帯は、県内では、22.43%となっている。全国では45位と下位水準だ。「沖縄の女性はよく働く」という一般的なイメージがある。しかし、出生率や保育園の待機児童率も全国一高い県内では、結婚・出産後も働き続けることが難しい現状がある。また、一人親世帯で子育てをしている方も多い。

「夫一人食わせられなくては、一人前の女とは言えない」との言葉があるように本来、沖縄女性はたくましい。これからさらに、女性の働く環境づくりが求められるのではないかな。

(海邦総研人材開発部／安田ひろみ)



【那覇空港貨物取扱量の推移】

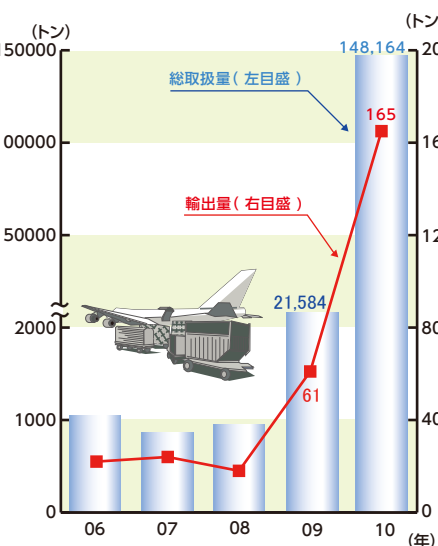
14万8千トン

空の玄関口として多くの観光客受け入れの重要な役割を担っている那覇空港。最近では、地理的優位性を活かした物流拠点としての役割も大きくなっているようだ。

沖縄地区税関「2010年分那覇空港貨物取扱量」によると、那覇空港での貨物取扱量は14万8千トンで、前年と比べ6倍以上も増加している。積み替えの貨物が大半を占めているが、注目されるのは沖縄から海外への出荷を示す輸出量が、2010年は前年に比べ2倍以上増加している点だ。

翌日には目的地に到着するというスピードを活かして、沖縄の新鮮な農水産物や、その他の県産品のアジア地域への出荷が増加している。海外初となるアンテナショップも香港等にオープンした。海外への物流拠点としての発展はもちろん、県産品の県外市場拡大のけん引役となることも期待される。

(海邦総研経営企画部／国古真吾)



【「健康」に関する意識ランキング】

第1位

「健康・長寿」は沖縄県を語る上で重要なキーワードのひとつ。実際そうした認識は、県民にかなり浸透しているようだ。

株式会社かんば生命保険が実施した2011年「健康・運動・コミュニケーション・食」に関する調査によれば、健康・運動・コミュニケーション・食の4項目について、総合順位で沖縄県は第1位であった。

健康維持のために「Webなどで健康情報を検索する」「老化防止に注意している」等、健康に関する意識の高さが伺える結果が表れている。

一方で県民の肥満割合は高く、メタボリックシンドロームや生活習慣病の増加、健康診断の受診率が低いなどの課題もあると言われる。

県民一人一人が健康に関する意識の高さを行動に移すことができれば、「長寿世界一」を取り戻す日は近い。

(海邦総研事業支援部／比嘉明彦)

(2011年)

総合順位	都道府県	総合点
1位	沖縄県	24pt
2位	兵庫県	26pt
3位	静岡県	36pt
4位	千葉県	37pt
5位	島根県	41pt
6位	滋賀県	44pt
7位	京都府	45pt
8位	宮崎県	52pt

※総合点の値の少ない方から順位付け

【自然学校の数】

369校

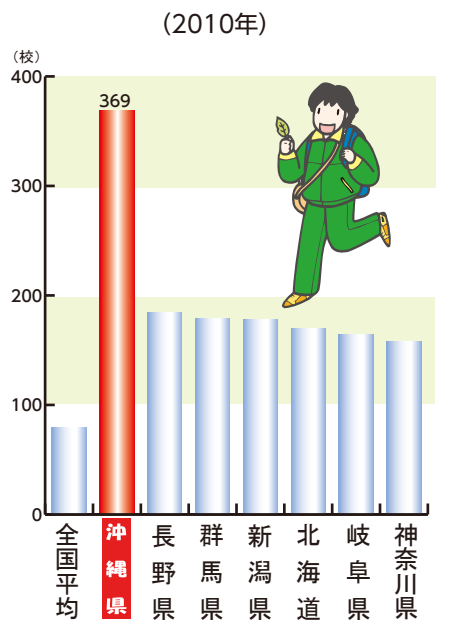
自然を通して学ぶことはとても多い。自然の優れた教育力をいかして青少年の教育や地域の環境保全のために活動しているのが「自然学校」。豊かな自然に恵まれた、ここ沖縄にも多くの自然学校がある。

公益社団法人日本環境教育フォーラムが発行している「自然学校調査2010調査報告書」によると、沖縄県の自然学校は369校、全国の1割を占めるダントツの1位だ。

年間500万人以上の観光客が訪れる沖縄。自然体験活動を目的に訪れる方も少なくない。各地域に根ざした体験プログラムはバラエティ豊かで、大人も子どもも遊びながら環境について学ぶことができる。

今でも残る豊かな沖縄の自然環境を、未来の子どもたちへと残すためにも、楽しみながら学ぶ機会を増やしていきたいものだ。

(海邦総研経営企画部／新里治史)



おきなわデータ算歩 けーざい100

「データ算歩」は県内でよく話題になる事柄を具体的に数字で裏付けて紹介しようと試みたもので、経済・数字の世界をまさに算(散)歩感覚で楽しみましようという内容です。

「食生活」「生活・消費」「産業」「住環境」など八項目に分類。漫画やグラフを使い、見開き2ページで1項目を説明しています。アイス・クリームやビールの購入額が全国一低いなど意外と思える数字も紹介。読みたい項目から読めるよう工夫しています。

沖縄県内各書店やインターネットでもご購入いただけます。沖縄けーざいを易しく知りたい、興味のある、という方に特にお勧め!

<http://www.kaiho-ri.jp>